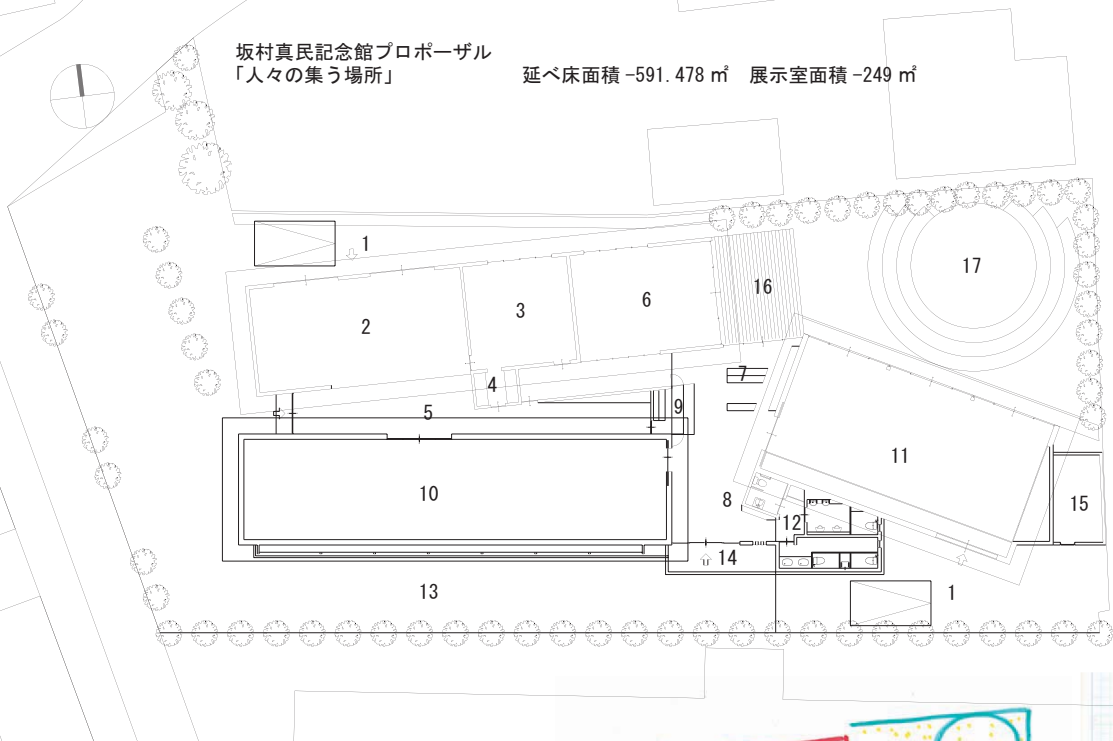
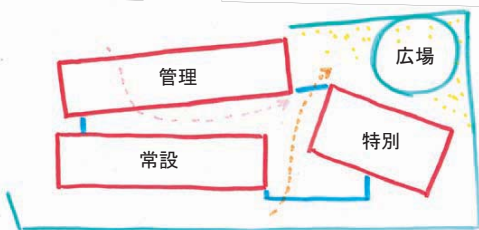


坂村真民記念館プロポーザル
「人々の集う場所」

延べ床面積 -591.478 m² 展示室面積 -249 m²



- 1. 搬入口
- 2. 作品収蔵庫・作業室
- 3. 事務室・応接室
- 4. 湯沸室
- 5. 通路・倉庫
- 6. 会議室
- 7. ショップ
- 8. ホール
- 9. 受付
- 10. 常設展示室
- 11. 特別展示室
- 12. トイレ
- 13. アプローチ
- 14. ポーチ
- 15. 設備スペース
- 16. デッキ
- 17. たんぼ広場



□記念館に対する発想

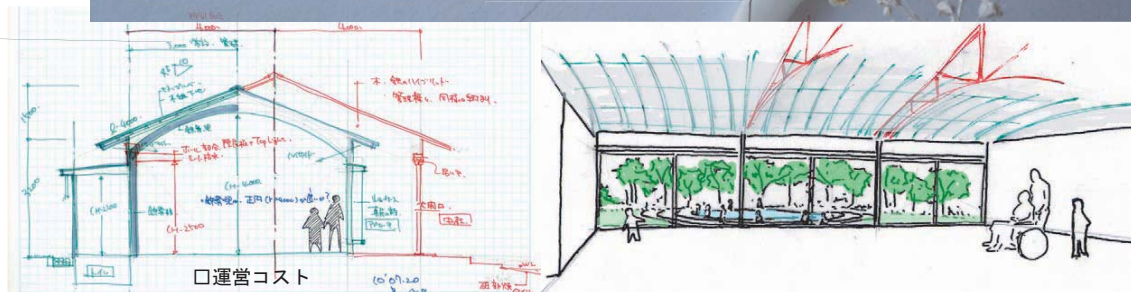
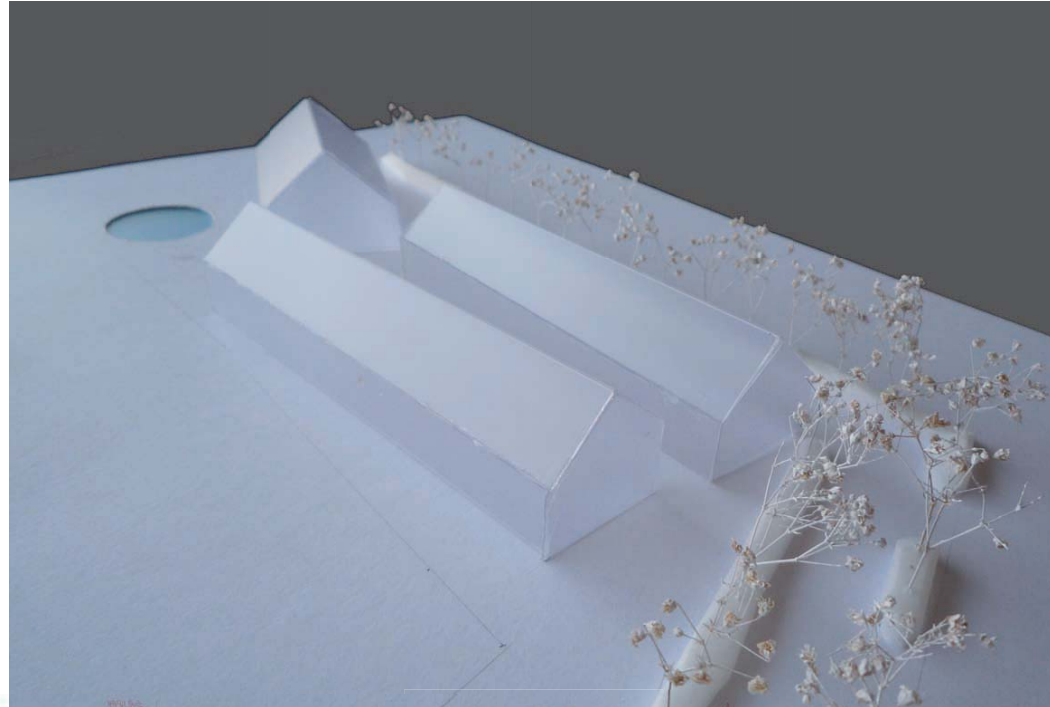
内外共に人々が集まり交流できるゾーニング（分棟形式）の提案
計画全体を大きく 常設展示部門、特別展示部門、管理部門の三棟に分け 開放的なホールによって一体とし屋外広場ともつなげます。来館者、町民、管理者が自由に出入り出来るホールの中心に受付を設け総合案内、安全に配慮します。屋外も広場、アプローチ、展示搬入経路を明確に分け敷地を余すことなく有効に利用します。このゾーニングは、坂村真民の質素かつ素朴を創出していきます。

□周辺環境との調和

分棟形式とすることで建物のヴォリュームを抑えることができ、つましい佇まいとなり町並みに溶け込みます。誰しもが描いたことあるイエ型のカチとすることが、ここでの素朴の造形と考えています。又、色調も瓦屋根、白壁などを使い調和を持たせます。

□建設コスト

計画建物の構造を鉄骨造と木造によるハイブリッド構造として提案します。
メインの構造を鉛直荷重と地震力を負担する鉄骨フレームとし、木造部分は鉛直荷重のみを負担するように梁・柱を適切に配置させることで、鉄骨を補助し最小の鉄骨量で十分な耐震性を確保させます。先般公布された「公共建築物等における木材の利用の促進に関する法律」等の国内における国産木材の利用促進に配慮しつつ、またプロポーザルの条件にもある木造調のデザインを無理なく実現する適切な架構とします。



□運営コスト

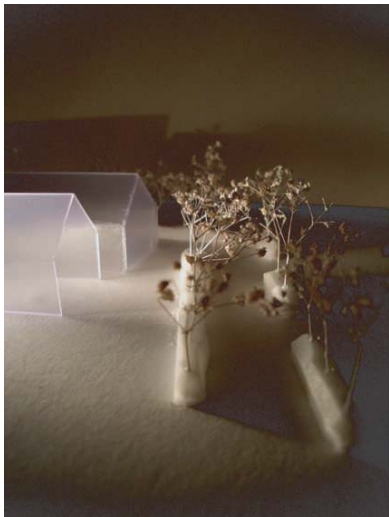
記念館は、とすればパビリオンとなりがちです。運営を継続し続ける為にもイベントを積極的に行うことを提案します。坂村真民の質素、素朴などテーマに沿ったフリーマーケット、ミニコンサートや季節にちなんだ朗読会、書会などを、屋内・屋外が一体的に繋がった場所で行えるような広場、特別展示室とします。会議室も同様に広場を眺めることが出来る配置とし、時にはデッキを使って少人数でのワークショップなども行えるように計画します。

□維持管理コスト

自然力を積極的に利用します。自然光をトップライト、ハイサイドライトなど適所に利用しながら庇、縦・横ルーバー、ペアガラスなどを設置することで日照負荷にも配慮します。夜間換気なども計画したいと思います。これらも分棟形式とすることで、個別に管理出来ます。また太陽光発電、雨水利用なども条件次第ではコストの縮減になるかもしれません。

□展示空間について

常設展示、特別展示ともにフレキシブルに対応出来る構造形式とします。
書齋については、窓から書齋を観るようにしたいと思います。そこには季節を感じられる花を生け、できれば人感センサーを使い来観があれば扇風機が回るなど、さっきまで本人が居たかのような気配を創りたいと思います。



概算建設費
記念館新築工事費 140,000,000 円
解体工事費（一式） 8,000,000 円